

セロシア(ケイトウ) ドラキュラ

Celosia Dracula

学名 *Celosia cristata*

発芽環境

用土

水はけの良い病害のない pH 値 5.8 から 6.2 程度、EC 値は 0.7 to 1.2 mS/cm が適する。

播種

288 穴以上のプラグトレーを用い、バーミキュライト等で軽く覆土する。病害のない清潔な用土を用いる。

播種時期

セロシア ドラキュラは特に初期栽培ステージにおいて日長による影響を受ける為、極端な短日または長日期においては注意が必要。(鉢上げから出荷までの日長反応の項参照。)

11 時間以下または 15 時間以上の自然日長における生産は推奨できない。

播種後のプラグ栽培期間である 3~4 週に 12~14 時間の LIP と呼ばれる日長処理を行うと開花が早まり、適さない日長環境下でも奇形花の発生が少ない。

ステージ 1 - 発芽には 2 日から 4 日を要する。

地温: 20 から 22° C

光環境: 発芽に光が必要。

水分量: ステージ 1 の期間は土壤水分を保つ。(水分レベル 4)

湿度: 子葉展開まで湿度を 95~98%に保つ。

矮化剤: 子葉展開後の徒長を抑えるために有効だが、開花が 7~10 日間遅れる要因となる。

プラグ生産

ステージ 2

地温: 20 から 22° C

光環境: 2,500 f.c. (26,900 Lux)以上

水分量: 用土を完全に乾かすことのないように注意しレベル 4 同様に水分量を保つ。

施肥量: レート 1(窒素量 100ppm 以下で EC が 0.7 mmhos/cm 以下)のリン酸値が低い硝酸態の肥料を施用する。

ステージ 3

地温: 20 から 22°C

光環境: 2,500 f.c. (26,900 Lux)以上

水分量: 培地の表面を押し、わずかな水滴が滴る レベル 3 から容易に染み出すレベル4の水分量を維持し完全に乾くことのないよう注意する。土壤乾燥の程度によってはストレスとなり開花の遅延に繋がる。

施肥量: レベル 2 の窒素量 100 から 175 ppm、EC 値 0.7 ~ 1.2 mS/cm のリン酸値が低い硝酸態の肥料を施す。

ステージ 4

地温: 20 から 22°C

光環境: 5,000 f.c. (53,800 Lux) 以上。

水分量: プラグ土中水分を保つ。

施肥量: ステージ 3 同様。

鉢上げから出荷まで

用土:

pH 値 5.8 から 6.2、EC 値 0.75 mmhos/cm の病害のない水はけの良いクリーンな用土を用いる。

温度

夜温: 16~18°C

日中: 16~22°C

日中平均温度 (ADT): 18~ 22°C

光環境

より高いレベルの光環境を保ち、日中平均値 (DLI) を 12 mol. m⁻².d⁻¹ とするよう維持する。

日長反応

セロニア ドラキュラは条件的な中日植物であり、12~14 時間日長において開花が早まり、11 時間以下または 15 時間より長い日長において開花が遅れる特性を持つ。

日長時間は開花の揃いや形状形成に影響を与え、10 時間日長よりも短い環境では開花が不揃いとなり奇形が生じる。16 時間より長い長日下では常状花と葉が密着する。

初期生育段階より日長による影響を受けやすい為、自然日長において 11 時間より短日または 15 時間以上の長日環境下においては播種を避ける

灌水

用土が常に湿っている状態を保つ。

施肥量

レート 2 の窒素量 (約 100 ~175 ppm 及び EC 値 0.7 to 1.2 mS/cm) の平均的な肥料要求を示すが高い塩類濃度は影響を受けやすい。

ピンチ

ピンチ 不要。

生産スケジュール

播種から鉢上げまで:

288 穴プラグ: 3 ~4 週

鉢上げから開花まで:

鉢サイズ: 15 cm

1 鉢あたり苗数: 1

鉢上げ後必要週*: 6 から 9 週

総生産週数*: 10 から 13 週

*: 栽培する自然日長が 11 時間以下または 15 時間以上の日長時間によって必要週数が増える。

病害虫情報

害虫: スリップス

病害: 特になし

EC 値について: EC (電気伝導度) はピート主体の北米の用土を算出の基準としており、条件によって適合し得ない場合もあります。

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用下さい。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、または作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります。
- 殺虫・殺菌剤、または矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則した正しい使用方法で施用しましょう。

PanAmericanSeed™